

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1.理念に基づく運営</b>			
1.理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当事業所の理念として 自立した生活の援助 選択の機会と自由 個人の尊重 プライバシーの保護 穏やかな死の援助 ということで、その人らしく、最後までなじみの環境、なじみの人たちの中で、暮らしていただけるよう努めている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で、理念に基づいてケアを行っているかを振り返り、実践に向けて取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族来訪時の話の中で、理解してもらえよう取り組み、地域の方にも理解していただけるよう 運営推進会議の中で、理念についてのお話をし、取り組んでいる。	
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者の方と散歩や買い物に出かけた時等、隣近所の人とお会いしたら、挨拶をし世間話などをして、関係作りに努めている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の定例会への参加、地域の防災訓練の参加などを通して、交流を始めているところである。	○ 今後も定例会の参加、その他の行事などに参加し、更なる交流を図りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	去年夏祭りを開催し、地域の方にも来訪していただき、楽しまれたり、グループホームとはどのようなものか良い機会だからと来られた高齢者の方もいらっしゃり参考にされていました。		
3.理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日常のケアの中では、なかなか気付かないことも、自己評価、外部評価を通して、良い見直しができ、実施する意義を理解することができている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、ご家族などとの話し合いの中で、当事業所について思っている事等を話していただき、日々のケアをご家族などの視点で見ることができる。開催がまだ1回しか行えていない。	○	今後も継続して、運営推進会議を行い、サービスの向上に活かしたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	中学生の職場体験、実践者研修の受け入れなどを行っている。また、権利擁護についての勉強会のために、講師として来ていただき、市町村との交流を始めているところである。	○	引き続き、運営の事、勉強会へのお話しなど行いながら、市町村との交流を深めていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	平成17年7月、成年後見制度について勉強会で取り上げ、平成20年1月に権利擁護についての勉強会にて学び、必要な人にはそれらを活用できるようご家族などに提案し、支援している。	○	内容として難しいもので、また大切なものなので、継続的に学ぶ機会を作っていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については学べていないが、権利擁護の勉強会で連動して虐待について学び、日ごろのケアの中で、虐待が行われないよう注意、防止に努めている。		高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を作り、更なる虐待防止への意識を高めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだし解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>母体であるときつ医院の院長、副院長とともに、話し合いの機会を持ち、利用者や家族の気持ち、思い、疑問などの解決に向け十分な説明を行っている。また、家族が罪悪感をもたれないように十分に傾聴している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部への苦情窓口及び当ホームの苦情窓口をリビング入り口に掲示し、また重要事項説明書にも記載している。また、日々のケアや会話の中で、不満など無いかを傾聴し、把握するよう努めている。何かある時はミーティングなどにて話し合い、対応するようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族来訪時に、暮らしぶりなどのお話をするともに、個人別に『多久庵通信』にて、写真や様子などを記載し、3ヶ月毎にご家族へ送付している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部への苦情窓口及び当ホームの苦情窓口をリビング入り口に掲示し、また重要事項説明書にも記載している。また、ご家族来訪時に意見、不満など無いかを把握し、何かある時は、ミーティングなどで話し合い、対応するようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>当事業所でのミーティングにより職員の意見などを聞き、必要に応じて、法人全体の各部署の責任者ミーティングにて、話し合い対応している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>当事業所ミーティング、各部署責任者ミーティングにて話し合い、勤務調整ミーティングにて勤務の調整などを行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>仕事内容、入居者の心身状況などを把握するまでは、日勤3人+1人とし、なじみのスタッフと一緒にケアやコミュニケーションをとり、入居者との関係を早く築けるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>スタッフの採用にあたっては、運営母体の院長、副院長とともに仕事に対する熱意や取り組む姿勢などによって協議の上決定しており、性別や年齢などは考慮に入れていない。また、採用後は、法人全体の中で、どの部署がより適正かを見極め、配属している。</p>	
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>職員に対して入居者の人権を尊重させる教育の一環として、利用者の生活歴について把握させることを心がけている。身体的、精神的な虐待や拘束について講習への参加や全体会議での議題とし、認識を図らせている。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>パートを含む全スタッフを対象に定期勉強会を開催している。事業所外での講習会や研修に職員が積極的に参加できるよう参加費などの負担免除を行っている。</p>	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会にて、ブロック内研修、全体研修、新人研修、交換研修などを通して、勉強や意見交換、それぞれのホームの見学などを行い、相互的にサービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常の中でスタッフの生活状況、ストレス、悩み、スタッフ同士の人間関係などの把握に努め、個別に話を聞く機会をなるべく設けている。事業所内での職員間の親睦が図れるよう親睦会などを設けている。</p>	<p>労働条件の緩和および福利厚生の更なる充実。ストレス解消に向けての個別の対応法の検討と実践。</p>
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている</p>	<p>スタッフの自主性に任せた企画(夏祭りなど)の実施。健康状態の把握および医療的なケアサポート。</p>	<p>スタッフが向上心を持って働けるような、スタッフの努力や成果を反映できる職能評価を行う資格取得に向けた支援作り。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人と話す機会を作り、落ち着いて話せる環境、雰囲気を作っている。また、体験入居などにより、1日を通して、本人と話せる機会を作る。</p>	
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の相談や困っていることなどを聴く機会を作り、落ち着いて話せる環境、雰囲気を作るように努めている。</p>	
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>法人にはグループホームのほか、高齢者用ケア付マンション、デイサービスなどがあり、どのようなサービス利用が良いかを、本人、家族との話し合いにより対応している。</p>	
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学や体験入居をしていただき、スタッフや他の入居者などに馴染んでいただけるよう対応している。入居当初は、家族の面会や家族への電話などの協力を得て、不安を取り除けるよう工夫している。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>本人の言葉に耳を傾け、共感したり、昔の風習や知恵などを教えてもらい、相互的な関係作りを築いている。また、洗濯物たたみや草取りなどを一緒に行い、本人、スタッフともに協力しながら、過ごしている。</p>	

グループホーム 多久庵

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の昔話などを聞くことで、情報を提供してもらったり家族ができるケア、協力していただける事は、スタッフと一緒にいたりすることで、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	本人と家族との昔話などから、どのような関係だったのかを把握し、また、来訪時に状況に応じて、本人、家族との間に立ち、一緒にお話をよりよい関係作りができるよう支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	家族などとの外出、外泊の予定に合わせ、入浴や排便調整をしている。また、家族や友人が来訪されたときには、本人との良好な関係を保てるよう状況を見て、さりげなくスタッフが間に入り、円滑にコミュニケーションがとれるようにしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に歌を唄ったり外出したり洗濯物たたみを手伝っていただくことで、利用者同士が関わりあえるように努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	同法人のグループホーム楽居、サポートリビング楽居への転居が多いので、継続的なかかわりを保っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1.一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人との会話、表情、態度などから把握に努め、困難な場合は、家族との話し合いにて、本人本位に検討している。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>フェイスシートや本人、家族、担当されていたケアマネなどからお話を聴き把握に努めている。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>本人の出来る事、出来ない事、性格、心身状態など日々のケアの中で把握し、スタッフ間にて共有するよう努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人との会話や表情などから、本人の希望を把握し、また、家族からも意見を聴き、カンファレンスにて話し合い作成している。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>4,6ヶ月ごとに見直しを行い、心身状況の変化により対応できないときには、ミーティングなどにて話し合い、見直しを行い、介護計画を作成している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の状況、気付きや工夫などを記録に記入し、申し送りの時等に、スタッフ間で情報の共有をするとともに介護計画の見直しに活かしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者同士で折り合いが悪くなった時等は、2Fのサポートリビングへ遊びに行く事で、距離を離し、気分転換を図っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の中学校の福祉職場体験を受け入れ、中学生との会話などで入居者も楽しみ、また良い刺激にもなっている。夏には夏祭りを行い、その際介護福祉の専門学校よりボランティアをお願いし、協力していただいた。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向や必要性に応じて、訪問理美容や訪問マッサージのサービスを利用していただいている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて地域包括支援センターより出席していただき、アドバイスなど頂いたき、また権利擁護についての勉強会に講師として、来ていただいた。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体がとぎつ医院のため、医療との連携は取れている。また、本人、家族の希望に応じて、病院の紹介や、以前から利用されていた医療機関の受診の支援も行う		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり利用者や認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ときつ医院に専門医がおり、連携を密に取っている。また、往診などにも来ていただいているので、利用者の状態も把握されているので、その都度、適切なアドバイスをしてもらっている。		
47 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診などにて、日ごろより来ていただいております。利用者の身体の異常時など医師との間に立ち、医療的処置などしてもらっている。		
48 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中には時折面会に行き、病状などの情報を聞くとともに、当事業所での生活スタイルや利用者の性格などの情報を提供している。また、ときつ医院の医師とともに、状態を観察し、病院の主治医、看護師、OT、PTとの話し合いにて早期退院できるよう努めている。		
49 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	理念の中に「穏やかな死の援助」としてあげており、入居当初よりご家族には理解を頂き、終末期の指針についての話し合いをしている。		
50 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療との連携は密に取れており、チームとして支援できる体制を作っている。また、必要に応じて、家族の希望に応じて、同法人であるグループホーム楽居、サポートリビング楽居への転居について、家族との話し合いにて決定している。		
51 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移住する際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	それまでの介護情報を記載し、情報を提供することで、継続的な生活を送っていただき、ダメージを防げるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>リビング内でのスタッフ間の情報交換などプライバシーに気をつけ行っている。また、記録などの個人情報の取り扱いにも注意している。</p>	
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたりわかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>それぞれの利用者に合わせて言葉を使用し、利用者の話をしっかり聴いたり表情、様子などをしっかり観察し何が言いたいのかを把握し、快適に暮らしていただけるよう努めている。</p>	
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人のペースに合わせて、その日の本人の状況、希望に応じて、1日を過ごしていただいている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理美容によりカット、パーマ、カラーなど、本人、家族の希望により支援している。また、入居前に行かれていた美容院の利用を希望される方には継続して利用していただいている。</p>	
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備などは業者に委託しているため、準備の機会が少ないが、テーブル拭きや、エプロンたたみなどを手伝っていただいている。</p>	
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>家族よりお金をお預かりし、本人の好きなものを買いに行っている。また、家族からの差し入れや、おやつを買ってきたりおやつを作り楽しんでいただけるよう支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人個人の排泄パターンを把握しやすいよう記録に1日の排泄表を書くようにしており、それを参考にトイレ誘導をしている。その上で、失敗が減ってきたら、リハビリから布パンツに替えている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の体調や希望にもよるが、基本的に1日おきに入浴されている。また、毎日就床前に希望されている利用者には、毎日入浴していただいている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は個人の体調、表情、様子などを観ながら、休息している。夜間は一人一人の就床時間やその時の体調、様子などに合わせ、就床していただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯物干し、洗濯物たたみなどを手伝っていただいている。また、誕生会や、お祭りなどの季節の行事を行ない、楽しんでいただいている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より お金をお預かりし、近くのコンビニに一緒に行き、ジュース、コーヒーなどを購入している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	コンビニへの買い物や地域のリサイクルボックスへ新聞紙、牛乳パックなどを散歩がてら、一緒に持って行ったりしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	不定期にて、季節の花を見に行ったり、愛宕餅を食べにいたり、ドライブがてら出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者が、電話をされたり年賀状の返事を書かれたりされるが、希望される利用者には支援できていない。	○	多久庵通信を送付する際など、利用者本人に一筆書いていたり、暑中見舞い、記念日などに手紙や電話のやり取りができるよう行っていきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間は設けておらず、いつでも訪問していただけるようしている。来訪時にはお茶をお出しし、利用者と一緒にお茶を飲みながら、お話しをされたり時にはスタッフも会話に入らせていただき、気やかな雰囲気を作れるよう心がけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットの床時に自分で動かれる利用者には、離床センサーを使用している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の希望により、玄関はオートロック式になっている。散歩を希望された際、利用者本人が玄関を開ける事はできないが、希望された際には、スタッフと一緒に散歩に行き、弊害を少なくするよう努めている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個別ケアを行う際などは、スタッフ同士で声を掛けあいながら、常にリビングには、スタッフが1人いるようにし、全体を見渡し、利用者の動き、様子に気をつけている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物などはスタッフが保管し、希望に応じて、スタッフの見守りしながら、使用していただいている。包丁はすぐに取れないように、簡単なロック式の包丁入れに保管している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会にて学ぶ機会を得たり、スタッフ間で情報を共有し、事前に事故を防げるように、努めている。また、事故が起きた際には、ヒヤリハットを書き、今後活かす、再び事故が起きないように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成しており 緊急時はそのとおり対応するようしている。また、ときつ医院との連携も密に取れているので、医師、看護師による応急手当など教えてもらったり 緊急時の医療的対応もしてくれる。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回消防訓練を行い、火災報知器の使い方、消防署への連絡、消火器の使い方、避難経路の確認などを行っている。また、地域の防災訓練に参加をしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し 抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の面会時に最近の様子をお話をしており 危険なことが予想される時は、医師より状況を説明を行い、また対応策を医師、スタッフ同士にて話し合い家族に理解していただけるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し 対応に結び付けている	日々の利用者の観察、入浴時のバイタル測定などにて、早期発見できるよう努めている。また、利用者の持つある病気に応じて、離床時などに血中酸素濃度を測定し、異常がないかを確認している。気づいた際には、他のスタッフへ情報伝達を行うとともに、ときつ医院の看護師に連絡し、医師の指示を仰いでいる。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており 服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の情報用紙を参考にし、理解するよう努めている。また、服用時にはスタッフ同士にて名前、日付、いつ服用するものかをダブルチェックし、誤訳防止に努めている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し 予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく多く水分を取ってもらうよう心がけ、なかなか水分を取っていただけない利用者にはこまめに声かけを行っている。必要に応じて、温タオルでお腹を温めたり 腹部マッサージを行っている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、就寝前に歯磨きを行っている。義歯洗浄、歯ブラシなど自分で出来ることはしていただいている。また、毎週歯科衛生士による口腔ケアをしてもらい、同時に個別の口腔ケアの指導をもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者により、栄養バランス、カロリーを考慮した献立を立ててもらっている。また、食事はキザミ食、普通食に食べやすいよう1口大に切る、水分にとろみをつけるなどで、個別に対応している。 水分は10時、15時、就床前に水分補給の時間として声かけや介助にて飲んでいただいている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ときつ医院により、インフルエンザの予防接種を毎年、利用者、スタッフ、希望される家族に実施している。手洗い、うがい、ウエルパスを行っている。また、勉強会、保健所の感染症研修に参加し、スタッフの意識を高めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾の消毒を毎日行い、食器は食器洗浄機にて、消毒も兼ね使用し、手洗いにて食器を洗った時は食器洗浄機の乾燥にて熱消毒を行っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路から当事業所へ入るところの通路の壁に看板をつけている。また、その通路に植木や花などを植え、入りやすい雰囲気になっている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、行事毎の飾り付けを行っている。トイレには芳香剤を設置し、消臭に努めている。また、テレビの音は大きくなり過ぎないように配慮している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを設置し、近い距離でゆったりとした気分で会話していただいたり、和室にて、洗濯物をたたんだり、囲碁をしたり出来るようになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、スペースの許す限り、使い慣れたものを持ってきていただいている。		
86	換気、空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	汚物は少しでも臭わないように、新聞紙、広告紙で包み、汚物入れに捨てている。24時間換気扇を使用し、適宜窓を開け、部屋の換気に注意している。温度調節はリビングに、HR-C(除湿型放射冷暖房)により体に優しく、1年を通して、快適な室温を保っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造により、段差がほとんどなく、随所に手すりを設置し、歩行時、移乗などの立位時などに使用している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	便所、お風呂、各個人の居室に大きな字で、分かりやすい高さに表札をしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように工夫している	デッキ、ポーチに花壇などがあり、四季折々の植物を楽しんでいただいている。また、それらの水撒きや草取りなど行っていただいたり、ベンチを設置しており、そこで日向ぼっこや会話できるようにしている。		

.サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の 2/3 くらいの	
		利用者の 1/3 くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に 1 回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の 2/3 くらいと	
		家族の 1/3 くらいと	
		ほとんどできていない	



グループホーム 多久庵

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くない	
100	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の 2/3 くらいが	
		職員の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の 2/3 くらいが	
		利用者の 1/3 くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の 2/3 くらいが	
		家族等の 1/3 くらいが	
		ほとんどできていない	

【時に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 1日自宅にいるように、ゆったりと、個人個人のペースに合わせた生活が出来るように、利用者との関わりやケアを行っている。
  - ・ 運営母体が医療法人であるため、医療との連携は密に取れており、身体の異常時にはすぐに対応出来る。
- また、理念の一つとして「穏やかな死の援助」と掲げているように、ターミナルケアにも力を入れており、医療のバックアップを受けながら、なじみの場所と思っていただきながら、最後までケアを行っていかれたらと思っております。